

森の仲間たち・情報

《私たちと一緒に到津の森公園で
ボランティア活動をしませんか?》



森の仲間たちは、「飼育・植物・動物ガイド・里山ガイド・環境教育・広報」の6グループに分かれて活動しています。

4月・7月・9月・11月の年4回入会説明会を開催しています。

自分に合ったグループを見つけ楽しく活動が続けていただくため、活動内容についてご理解いただくために入会説明会参加・仮会員期間中の活動を入会の条件とさせていただきます。

仮会員の期間はすべてのグループの活動に参加できるので、体験を通して興味ある活動を見つけていただけたと思います。

まずは入会説明会にご参加ください。

次回の入会説明会は、
平成29年11月18日(土) 13:00~
【申込みは11月8日(水)まで】



天候などの都合により変更・中止することがあります。どうぞご了承ください
詳しくは、HPもしくは到津の森公園(651-1895)まで、お問い合わせ下さい。

森の仲間たち

「到津の森公園」公園事務所
北九州市小倉北区上到津 4-1-8
Tel 093-651-1895 〒803-0845
<http://www.itozu-zoo.jp/>



森のお便り 10月号 2017年

発行・編集 「到津の森公園」「森の仲間たち」 17年10月1日発行 通巻176号

マジカルハロウィン 10/1(日)~10/30(月)

ハロウィンの季節、到津の森公園では、上記期間中に園内をオレンジと黒のハロウィンカラーに彩り、かかしやカボチャ人形などが園内のあちこちに登場します。

期間中は楽しいハロウィンイベントを開催!

★トリック・オア・トリート

期間中の土曜日 14:00~

※小学生以下の各回限定 150人(お菓子がなくなり次第終了)

不思議な衣装を着たスタッフに合言葉を言うと
お菓子がもらえます。
合言葉は…「トリック・オア・トリート」!!

★モルモットとパチリ~ハロウィンバージョン~

期間中の土日祝(10/8は除く)

15:30~(15分程度)

【ウサモルハウス】

ハロウィンバージョンのモルモットとパチリ!
一緒に記念写真を撮りませんか?
※動物の体調により、中止になる場合があります。

★動物になってみよう!~アニマルメイク&コスチューム~

10/22(日)・29(日) 13:00~15:00

【管理センター3階会議室】

かわいいアニマルメイクや、ハロウィンの衣装を試着できます。
記念撮影してはいかが?

Magical Halloween



花暦 神無月

清々しい秋風を感じる時、あたりを見回すと、強い日光に色あせていた木々の枝先の葉や、干からびそうだった空き地の草々もキリッと生き返り、春の万緑に負けぬ美しさです。

すでに高齢者にカウントされているおばさんは、昨今の夏の過酷さに抵抗できなくなっていたのですが、今年は身内に病人を得て、連日あくせく車を走らせる日々となってしまいました。あんなに楽しみにしていた、園内の散歩も足は遠のくばかり。

それでも車窓から見える酔芙蓉、路傍のエノコロ、ミズヒキ、ツクサと束の間の目の保養を楽しんでいました。

さて、今日は久しぶりに園に赴く事が出来ました。野草園の秋海棠(シュウカイドウ)、ヤブラン、園路に沿って歩けば、ヌスビトハギ、イヌタデ、カラスウリの実などお馴染みさんに出会って、元気が出始めた頃、「草原の世界」のフェンス沿いに、50cm丈の草の茂みを見つけました。野原で見かけるカラムシ(イラクサ科)のようです。長さ10cm以上もある広卵形の葉は、昨日からの雨風に打たれ傷んでしまっています。でも縁にはくっきりとしたギザギザ、先端は尾状にとがり、葉の付け根には白い小花の束がついています。

ただし近い仲間にはアオカラムシやナンバンカラムシなど数多く、そして交雑種もあり、分別は難しいと聞いた事もあります。カラムシの仲間ではあると思います。

カラムシの類は縄文時代から日本で栽培され、種々の繊維の材料として活用されましたが、特に衣類用の麻布として広く普及していました。その後室町時代にインドより綿花が伝えられ、柔らかく暖かい木綿布は絹を使えない庶民を救い、全国に広まりました。

あはれカラムシは多くが野生化し、麻布は趣味の高級品となりました。合理化に向かない絹も同じ道をたどり、材料の蚕(カイコ)の食草桑の木が野生化してゆきました。

園内ではイタドリもどんどん成長して、カラムシに似た白い花が目立ちます。木々は冬芽の準備に怠りなく、動物の冬毛も立派になってきました。

10月の「到津の森公園」へいらっしやい。

文：花咲くおばさん

森のなかま・カルガモ

カルガモ成長記録

バードケージにはヘビなどが侵入し卵が食べられてしまうことがあるため、親鳥に卵を抱かせる代わりに、孵卵器で温めて育てることがあります。

5月中旬のこと、その孵卵器で元気なカルガモ8羽が生まれました。食欲も旺盛で、餌のキャベツと小松菜のみじん切りを毎日1~2キロ食べるようになりました。

本来なら親鳥についてまわり、その中で様々なことを学んでいくのですが、人工育雛のため、飼育員が補助してやらないといけません。例えば泳ぐ練習です。浅いプールに水を張り、ゆっくり入れてやると小さな羽をパタパタさせてすぐに陸に上がってしまいます。1カ月くらい経った頃、カルガモたちも自らプールに入るようになり、羽も大きくばたつかせるようになりました。そして、バードケージに移動する日がやってきました。

これからは少し広くなった世界で、他の鳥たちと一緒に暮らしていきます。どんな成長をしてくれるか楽しみです。みなさんもぜひ見に来て下さいね。



飼育展示係 松井 遥